

ブラジルの金融市場動向 Weekly Report

2018年12月3日

【2018年11月24日～2018年11月30日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のブラジル・レアルは、対円、対米ドルともに下落しました。また、2年国債金利は上昇しました。国内に目立った材料がなく、ブラジル・レアルは外部要因に左右される展開となりました。

資源価格が軟調であったことで、ブラジル・レアルは週初から下落しました。一方で、週半ばにはパウエルFRB(米国連邦準備制度理事会)議長の講演があり、今後の利上げに消極的な姿勢が示されたことはブラジル・レアルの上昇要因になりました。しかし、週末の米中首脳会談を控え投資家の警戒感が根強い中、ブラジル・レアルの上昇余地は限定的でした。1週間で見るとブラジル・レアルは下落するとともに金利も上昇しました。

経済指標に関しては失業率やGDP(国内総生産)などの発表がありました。GDPは前年比で市場予想こそ下回ったものの、どちらの経済指標もブラジル経済の拡大を示す結果となりました。

【2】今週の見通し

今週は、IPCAインフレ率、鉱工業生産、PMI(購買担当者指数)などの発表が予定されています。

ブラジル・レアルやブラジル金利は、外部要因に左右される展開が続くそうです。週末に行われた米中首脳会談では、米国が2019年に予定していた中国への追加関税を猶予することが決定されました。貿易戦争の激化をひとまず回避したことは、目先は市場のリスクセンチメントの改善につながるとみられます。しかし、追加関税の猶予は一時的な措置に過ぎず、今後米国と中国の間で協議が進展するかが注目材料になりそうです。

ブラジル国内では年金改革の行方が引き続き注目材料になるとみられるものの、年内に進展することは市場では見込まれていません。動きがあるのは早くとも2019年前半になると考えられます。

【ブラジル・レアル 為替推移】

(2018年11月2日～2018年11月30日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【ブラジル 金利推移】

(2018年11月2日～2018年11月30日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。
- 当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。
- 当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。
- 当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>